

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。

文章A

本来、問題意識を持つから学ぶ対象を選ぶものが、学校の生徒たちの多くには、教えられる側という受動的な考えが染み込んでおり、積極的に問題を見つけようとはしません。しかし、問題を自らつかみ、答えを得るために学び、的確に判断して現実を動かしていくことが、本当の頭のよさであるはず。冷静に物事を分析し、把握し、現実的に一歩、人生を先に進めるのは、自分自身でしかありません。

判断を下す際、判断の対象によって、時間のかけ具合とかマネジメントの方法が変わってきます。しかし、普段から意識して全体を見ていない人は、その判断に苦しむことになります。多くの人は、近視眼的に、自分が放り込まれた狭い範囲しか見ません。その中で頭がいつぱいになってしまい、気がついたらもう目の前しか見え、パニックを起こして時間をムダにしてしまいます。

そうならないために、常に全体像をつかむ意識、あるいは問題を自ら設定する意識を持つことです。その意識をはっきりさせることで、判断が的確になり、時間の使い方も上手になると思います。

(齋藤孝『地アタマを鍛える知的勉強法』による)

講談社現代新書 刊

文章B

私は、世界中のさまざまな研究者に会い、共同で研究をしてきました。いろいろな国籍のたくさんの若手研究者や大学院生を指導もしてきました。その経験からひとつ言えることは、人と異なった人生経験をしていた人こそが、面白い視点を持ちえるし、興味深い発想をするということです。テストでよい点を取るためだけに勉強をして、似たような考え方を持った人とはか交流してこなかった人は、視野も発想の幅も狭くなり、歳を追うごとに伸び悩むことが多いのです。

人と異なった人生経験をすることは、意欲さえあれば、だれにでも可能なことです。突拍子もない大冒険をする必要はありません。身の回りの、高校生や学生として手の届く範囲のことであっても、あまり人が目を向けていないことに目を向け、自分なりに問題意識をもって何かに取り組めば、その活動が貴重な人生経験となるのです。私が先に「活動が重要」だといったのは、そういうことです。

(河野哲也『問う方法・考える方法』による)

ちくまプリマー新書 刊

問題

〔問題 1〕

文章 A について、筆者の考える本当の頭のよさを身につけるためにはどのようなことが必要だと考えますか。**文章 A** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題 2〕

文章 B について、筆者の考える活動が重要とどのようなことだと考えますか。**文章 B** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題 3〕

この二つの文章を読んで、あなたは「学び」についてどのようなことを考えましたか。本校入学後の目標を含めてあなたの考えを、いくつかの段落に分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落をかえるときは、一まず空けて書きましょう。ただし、「問題 1」と「問題 2」については、一まずめから書き始め、行をかえてはいけません。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とくてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じまずに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じまずに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。

二〇二二年度 トキワ松学園中学校入学試験
適性検査型 適性検査ⅠA 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい